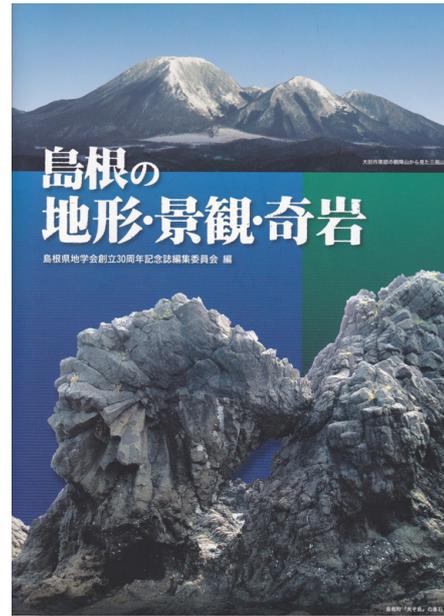


島根県の地形・景観・奇岩

島根県地学会創立 30 周年記念誌編集委員 [編]

高浜印刷
発売日：2016 年 9 月 28 日
定価：1,200 円 + 税
ISBN：978-4-925122-63-4
B5 判 オールカラー
99 ページ、ソフトカバー



書名の「地形・景観・奇岩」はまさに地質の反映であり、一般の人が地質に興味を持つきっかけになることがある。島根県の地質は付加体、変成岩、深成岩、火山岩、堆積岩など多様であるが、中新世の火山岩と堆積岩が作る海岸や溪谷は、ごつごつした岩が白くあざやかな雰囲気を醸している。

本書は島根県地学会の会員が仕事などで興味をひかれた地形・景色・巨岩などを、2005～2015年に島根県地学会会誌の「地形・景観・奇岩」の欄で紹介してきた記事に加筆して1冊にまとめたものである。隠岐・出雲・石見の3地域から46件の地形や奇岩について、カラー写真、その形を生んだ地質の解説、露頭位置とアクセス法を示した地図、及び地形・奇岩にまつわる歴史や周辺の見所の紹介が添えられている。また冊子の表見返しには見開きで島根県内の位置を示した索引図と地質時代におけるその岩石の位置付けを示した地質総括表が、裏見返しの見開きには地質時代の区分と堆積岩及び火成岩の分類表が示されている。これらは一般の人が本文の岩石や時代を理解する助けになるだろう。

全体を通じて地形と地質が人々の営みに影響してきた歴史にも目が向けられ、出雲風土記との比較が多いのも本書の特色である。たとえば風土記の研究から、真砂や三瓶火砕流由来の土砂が神戸川と斐伊川で運ばれて島根半島と中国山地の間の海を埋め立て、沖積平野を広げてきたことが国引き神話の背景になった可能性が紹介されている(19、

33；数字は項目一覧の番号。以下同様)。また奇岩は意味ありげな形をしているので、神や大蛇や弁慶のしわざとする伝承も島根県らしい(10, 14, 16, 23, 31, 38, 特別編A)。伝説がない奇岩でも、松江市島根町大ぞ島の車石(表紙写真下, 8；放射状節理が360度の全輪完結形である点が秀逸)や三瓶小豆原埋没林(34)、などは実際に訪れて見る価値がある。島根県の地質に立地した産業として、西洋式製鉄法導入以前の和式製鉄法としてのたたら製鉄が磁鉄鉱に富む山陰花崗岩類を背景にしていたこと(30)、都野津層の風成砂層がガラス原料として、粘土層が石州瓦として利用されていること(39)、島根県の中新統に挟む石炭を稼行した炭鉱があったこと(特別編B)が納められている。

このほかに自然に神秘性を感じてきた意識(20, 25, 31, 特別編A)は、島根県で人と地質の関わりの中で仕事をしてきた著者ならのではの視点とを感じる。これは地質学や土木技術が進歩した現代でも、昔から自然を畏敬してきた意識にも通じているのではないだろうか。

本書の元になった島根県地学会誌は逐次刊行物なので、全県の地質名所を一挙に網羅することは意図されていない。このため現時点で隠岐トカゲ岩、大森銀山、加賀の潜戸、大根島の溶岩トンネル、砂鉄海岸などは未収録であり、これらの紹介は今後の追加に待たなければならない。しかし本書に取り上げられた項目だけでも、島根県の地質と人との関わりについてかなり伝えきれていると言える。



なお、これまでの記事は加筆部分と特別編を除いて Web に掲載されているので、追加記事も Web では読むことができるだろう (<https://shimanechigaku.wordpress.com/tikei/> 2017年3月10日 確認)。

本書に収録された地形・景観・奇岩の項目 (* は紹介者註)

隠岐地方

- 1 地すべりでできた「油井の池」(隠岐の島町)
- 2 爆裂火口の断面を見る—西郷港入りロー(隠岐の島町)
- 3 国賀海岸の摩天崖* (西ノ島町) * 海食崖

出雲地方

- 4 伯太町の玄武岩柱状節理 (安来市)
- 5 伯太町上の台玄武岩の爆裂火口壁 (安来市)
- 6 伯太町飯盛山の玄武岩 (安来市)
- 7 美保関町の古浦層 (松江市)
- 8 島根町「大ぞ島」の車石* (松江市) * 表紙写真下
- 9 島根町瀬崎の火道 (松江市)
- 10 玉湯町の弁慶岩 (松江市)
- 11 小伊津町海食洞 (出雲市)
- 12 小伊津海岸の洗濯岩 (出雲市)
- 13 十六島鼻の海食崖 (出雲市)
- 14 大社町鷺浦の縦穴海食洞 (出雲市)
- 15 大社町日御碕の柱状節理 (出雲市)
- 16 大社町の礫島 (出雲市)
- 17 出雲北山と大社衝上断層 (出雲市)
- 18 大社町弥山の石ごうろ* (出雲市) * 岩海
- 19 国引き神話 (出雲市)
- 20 稲佐の浜と弁天島 (出雲市)
- 21 斐川町の名峰仏経山 (出雲市)
- 22 斐伊川下流部の「幻の滝」 (出雲市)
- 23 朝山町の鞍掛岩 (出雲市)
- 24 乙立町の立久恵峡 (出雲市)
- 25 佐田町の「鬼の腰掛岩」 (出雲市)
- 26 大東町山王寺の棚田 (雲南市)
- 27 三刀屋町の大東花崗閃緑岩 (雲南市)
- 28 三刀屋町の雲見滝 (雲南市)
- 29 奥出雲町岩屋寺の切開 (奥出雲町)
- 30 奥出雲町の「鬼の舌震」 (奥出雲町)

石見地方

- 31 波根町の立神岩 (大田市)
- 32 久手町の羽毛状構造のある巨礫 (大田市)
- 33 国境の独立峰—三瓶山*— (大田市) * 表紙写真上
- 34 太古の森—三瓶小豆原埋没林— (大田市)
- 35 五十猛町の猛鬼海岸—伝承に生きる柱状節理— (大田市)
- 36 五十猛町御大師山の波食窪 (大田市)
- 37 大屋町鬼村の鬼岩 (大田市)
- 38 福光町蛇島の柱状節理 (大田市)
- 39 温泉津町の標高 320 m にある風成砂層 (大田市)
- 40 邑南町の「志都の岩屋」 (邑南町)
- 41 三隅町室谷の棚田 (浜田市)
- 42 津和野町の小さな火山—鍋山— (津和野町)
- 43 巨大地すべりが造った吉賀町の棚田 (吉賀町)
- 44 高津川源流域の河川争奪 (吉賀町, 山口県岩国市)

特別編

- A 石神信仰—女夫岩を中心—to (松江市)
- B 三刀屋町高窪の炭鉱跡 (雲南市)

(産総研地質調査総合センター地質情報基盤センター

松浦浩久)

GSJ LDが「Linked Open Data チャレンジ Japan 2016 データセット部門最優秀賞」を受賞



産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

地質調査総合センターの公開するLOD「GSJ LD」が、Linked Open Data チャレンジ Japan 2016においてデータセット部門最優秀賞を受賞しました。

LOD(リンクト・オープン・データ)は、インターネット空間で縦横無尽にデータ同士が繋がりが合う、新時代のデータ形式で、データベースの利用をより促進できるものとなります。欧米に続いて日本でも普及に向けて動き出したところです。

地質調査総合センターでは、地質情報をLODとして公開するウェブサイト「GSJ LD」を2016年度から公開しました。ユーザーが意識しなくてもデータベース自体が関わりのあるデータに連結していることで、意外なデータの関連や境界領域が見つかることにより、新たな意味や価値が発見されることを目指しています。これにより、今はまだ見えていない地質情報の用途や価値が格段に広がることを期待されます。

選考コメントには、「地質というこれまでにない分野において、文献や標本、地図画像といった各種研究資源をLODで公開しています。研究資源の公開共有は重要な課題であり、素晴らしい取り組みです。今後DOI等外部の研究リソースにつながっていくことで、応用が広がることを期待します。」とされ、2017年3月11日に東京大学本郷キャンパスで開催された授賞式では、内藤一樹アーカイブ室長が表彰されました(第1図)。



第1図 授賞式の様子(左が内藤氏)。



第2図 受賞作「GSJ LD」の画面。



第3図 HTMLで表現された出力データの例。

「GSJ LD」(第2図, 第3図)は、下記のURLからご利用いただけます。
<https://gbank.gsj.jp/ld/>